

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立深井中央中学校
校長 泉谷 浩幸

中学校区におけるめざす子ども像

「自らを律し、自ら学び続ける子」

令和7年度 重点目標 ●「学ぶ姿勢」の育成と魅力ある授業づくりの推進⇒ 落ち着いて学ぶ環境を整え、生徒一人ひとりの「強み」に着目した魅力ある授業を通して、学ぶ喜びを実感できるようにする。

●「生徒の活躍の場」づくりと「自己有用感」の醸成⇒ 授業、部活動、委員会活動、生徒会活動など、あらゆる教育活動において、生徒が主体的に関わり活躍できる場を積極的に設定し、自治の力を育む機会を創出する。

●「心の教育」の深化と「規範意識」の育成⇒ 人権教育・道徳教育を基盤として、学校生活全体で「自尊感情の育成」と「正しい行動の習慣化」を図る。また、「時を守り、場を清め、礼を正す」姿勢の定着を目指す。

● 学力向上と学習環境の整備⇒ L-プロジェクト→「教師が好き、教科が好き、学ぶことが好き、繋がりが好き」という4つの“好き”を大切に、学ぶことの楽しさを実感できる授業と温かい人間関係づくりを推進する。これにより、『学力向上』と『静謐な学習環境の整備』の両立を図る。

「確かな学び」の現状
生徒との関わりを重視した取組により、意欲的に学ぶ雰囲気が育ちつつあるが、基本的な生活習慣や家庭学習の習慣化が未定着な生徒も見られ、学習への安定した姿勢の確立が課題である。授業中の集中力や規律面においても改善の余地があり、全生徒が落ち着いて学べる静謐な環境の整備が求められる。ICT 機器の活用は進んでいるが、日常的に効果的に使えるよう指導の工夫が必要である。教師と生徒の関係づくりや声掛けを重視した授業改善を通じて、学習意欲を高め、「学ぶことが楽しい」と感じられる授業づくりを進めていく。また、家庭との連携や情報発信を強化し、生徒の学力定着と主体的な学びの定着を図る。

「豊かな心・健やかな体」の現状
日常的教育活動を通じて多様性を尊重し、互いを認め合う人権感覚の醸成に努めてきた。生徒の人権意識は着実に高まりつつあるが、今後は一人ひとりが自分自身の価値に気づき、他者よりよい関係を築く力をさらに伸ばす必要がある。一方、体力面では全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では多くの種目で全国平均を下回る結果となった。この問題を対処するため、体づくりの視点を取り入れた体育授業や、運動への興味を高める授業改善が求められる。体育的行事の工夫や、日常的な運動習慣づくりを含め、全体的に体力向上への意識を高める取組が重要である。心と体の両面から、主体的に健やかに成長できる環境整備を今後も推進する。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～9月末)	達成状況(年度末)			
								自己評価	学校関係者評価		
確かな学び	知的探求	学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子供の育成	●個別最適化された学びの場を提供し、生徒が学ぶスタイルを選択できるようにする。そのために、ICT 機器を自然と選択用に入れられるように普段の教育活動において使用機会を多く取り入れていく。	「自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の質問項目への肯定的な回答が70%を超える。	1.各種アンケート 2.授業の様子	1.3学期 2. 通年	B	B	ICT機器の活用環境は整いつつあり、授業内での使用場面も一部で定着が進んでいるが、アンケート結果では判断基準の問いに肯定的な回答は58.9%にとどまり、依然として課題が残る。今後は効果的な活用法の共有を進め、実践を広げていきたい。	B	ICT機器の活用は一定の成果が見られるが、教員間で差がある。今後は全教科での積極的活用とともに、家庭への持ち帰り等も含め、生徒の主体的な学びの充実を期待する。
	授業改善	生徒が授業を好きになる、深く学びたくなる、繋がる、授業を目指し教職員全員で授業改善を図る。(Lプロジェクト)	●Like・Love (好きになる) 教科や授業を「好き」になるために、実生活に結びついた本質的な問いを課題として設定する。また、教員との信頼関係が学びへの意欲に一定の影響を及ぼすと考えられるため、日頃から丁寧な関わりを大切にする。	統一テストのアンケートにおいて、「○○(教科)の授業は好きですか」という質問項目に対する肯定的な回答が70%を超える。	各種アンケート	通年	B	B	生徒との信頼関係を重視した授業改善に取り組む、生徒の反応にも前向きな変化が見られているが、公的アンケートでは教科ごとの差はあるものの、全体平均は68.1%と目標わずかに届かず、今後も「学ぶことがやめられない授業」の実現をめざし継続して取り組む。	A	型こたわれない授業づくりが進められ、生徒の興味・関心を引き出す工夫が見られる。校外での観察活動など、生活に密着した学びを意識した取組が積極的に行われている。
			●Learn (深く学ぶ) 学びを深めるために、個人・ペア・グループで探究的な課題に取り組む授業を展開する。ICTの活用を通じて、意見の共有や自分の考えの表現を円滑に行えるよう、必要なスキルの育成にも力を入れる。	授業参観・研究授業および討議において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況	通年	B	B	探究的な課題設定や意見共有の工夫が進み、生徒の思考を深める場面も見られた。今後は教員間での実践共有や指導スキルの向上を図り、授業改善をさらに推進していく。	B	タブレットの積極的な活用により探究的な学びの充実が期待される。授業観察を通して実践の良さを共有し、生徒の驚きや気づきを大切にした指導の広がりを目指す。
			●Link (つながる) 授業内で他者とのつながりを意識させ、相手の考えを尊重しながら課題に取り組む姿勢を育てる。さらに、教科間のつながりを意識した授業構成により、生徒が見通しを持って学べるよう支援する。	授業参観・研究授業および討議において、実践されているかどうかを観察する。	実施状況	通年	A	B	他者との対話を重視する場面の設定が徐々に進んでいる。生徒間での相互理解や協働の場を増やし、授業内での「つながり」を実感できる雰囲気さらに育んでいきたい。	B	生徒同士が関わり合い、学び合う場面づくりへの意識が高まりつつある。ペアやグループ活動を通じて意見を共有し合う場面も増えてきており、今後の広がりが期待される。
豊かな心・健やかな体	社会実践力の向上	他者との関わりを通して社会性と主体性を育み、優しさと厳しさを兼ね備えた信頼関係を築く	●日々の声掛けや行動観察を通して生徒の「強み」を見つけ出し、学級・学年・学校で活躍できる場を意図的に設定する。 ●「優しさ」と「厳しさ」のバランスを大切にしながら、教職員全体で「かかわり貯金」を増やし、信頼関係の土台を築くとともに、生徒の社会性と主体性の育成を図る。	「良いところがある」「得意なことをしていく」「学校が楽しい」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	IRT調査等 見取り	3学期 通年	A	A	日常の中で生徒一人ひとりの「強み」を見つけ、活躍の場を意図的に設定する取組を継続している。学級・学年単位でのかかわりの中で、生徒の主体性が発揮される場面が増加しており、信頼関係に基づいた人間関係の構築が進んでいる。	A	教員が生徒に丁寧に関わり、常に寄り添う姿勢が見られる点は高く評価できる。保護者からは感謝の声が寄せられる一方で、教員の健康面を気遣う声も上がっている。
		人権尊重の精神を育む	●すべての行動、言動において人権意識・道徳意識をもって取り組む。	「友達を傷つけないようにする」「道徳の授業は大切だとおもう」と肯定的に回答する割合が75%を超える。	学校教育自己診断 IRT調査等	3学期	A	A	学校の生活全体を通じて、人権意識や思いやりの心を育む働きかけを継続している。生徒の中に「他者を思いやる気持ち」が着実に育ちつつある。	A	人権に関する取組が積極的かつ継続的に行われている。テトルや放送、学級活動等を通じた働きかけにより、生徒の人権意識の高まりが見られる。
		生活習慣の改善	●日々の生活の中で、「時を守り、場を清め、礼を正す」を全校共通の生活規範として定着させる。 ★教職員が一体となって基本的な生活習慣の指導を継続的にを行い、規範意識や自律の力を育む。	「時間を守りヘル着がきている」「そうじをしっかりとできている」「基本的なマナーが身についている」と肯定的な回答が75%を超える。	全国学力・学習調査等	3学期	B	B	基本的な生活習慣の定着に向けた指導を継続している。学級や個人による差はあるが、全体での改善の兆しが見られている。今後は共通理解に基づく継続的な指導を通して、学校全体での規範意識向上を図っていく。	B	時間・礼儀・マナーを意識した共通指導を継続し、教職員が日常的に声かけや生活指導に取り組んできた。アンケートでは肯定的な回答が82%と高水準であったが、生徒間での声かけや主体的な行動にはまだ差があり、今後の課題である。
地域活動	信頼と連携	地域と一体となり、教育の推進を図り、信頼される学校づくりをめざす。	●教育活動などの学校情報を通信やHP・Tetoru等で情報提供を行う。 ●★PTA、地域連携しながら各行事・地域活動に積極的に参加する。	・学校HP更新を活性化し、10万アクセスをめざす。学校(更)500部を地域配布。 ・中区各種行事への参加や施設への交流活動の実施。	学校アンケート 実施状況	3学期	A	A	学校だよりやHP、Tetoru等による積極的な情報発信を行い、保護者・地域との連携を意識した取組が進んでいる。PTAや地域の行事にも積極的に参加しており、学校への信頼の醸成に繋がっている。	A	テトルによる情報発信が充実しており、ホームページでも学校や行事の様子が分かりやすく伝わる。教職員の取組や生徒の生き生きとした姿を見ることができ、今後も期待している。

校長より（年度末）

令和7年度、本校は「Change & Challenge 強みを見つけてコツコツと楽しく学び、自ら学ぶ中央生」の具現化に向けて、教育の根幹である静謐な教育環境の構築に取り組んできました。授業規律の徹底、制服登校の推奨、生活指導の共通化など、複数年計画で教職員一丸となって取り組みを進め、日々の教育活動の中で多くの困難にも直面しましたが、その都度、職員・生徒・保護者、そして地域の皆様と力を合わせて乗り越えてまいりました。改めて、皆様のご理解とご支援の心より感謝申し上げます。

「確かな学び」においては、L-Projectや「学びのコンパス」を意識した授業改善の力を入れ、知的探求を促す授業づくりを推進してきました。生徒同士が対話を通して考えを深める授業も少しずつ定着の兆しが見られていますが、教員間での実践共有や指導スキルの向上など、まだ道半ばの課題も残されています。

「豊かな心・健やかな体」の育成については、日々の声かけや行動観察を通じて、生徒一人ひとりの強みに目を向け、活躍の場を意図的に設けてきました。また、かかわりの蓄積を大切にし、信頼関係を土台とした社会性と主体性の育成に努めてきました。基本的な生活習慣の定着や規範意識の育成にも継続的に取り組み、「時を守り、場を清め、礼を正す」という本校共通の生活規範も徐々に根づきつつあります。まだ個々に差はありますが、生徒の中に芽生えた意識を育てていく必要があります。

地域との連携では、学校だよりやTetoruによる情報発信を通して教育活動の見える化に努めるとともに、PTA活動や地域行事にも積極的に関わり、信頼関係の構築を図ってきました。青少年健全育成行事や地域行事、祭礼などに参加する中で、学校が地域とともにあることの大切さを実感する一年となりました。

これからも本校は、教育活動のさらなる質の向上と、生徒一人ひとりの可能性を信じた指導を継続してまいります。教職員が思いを一つにし、生徒の成長に伴走できる体制づくりを進め、「子どもたちの未来のために」学校が変わり続ける覚悟をもって歩みを進めていきます。

引き続き、保護者・地域の皆様と共に手を携えながら、地域に信頼される、そして子どもたちが誇りをもって通える「最高で最強の深井中央中学校」をめざして、全力で取り組んでまいります。

学校関係者評価者から（年度末）

教育活動全般を通して、先生方が生徒一人ひとりに寄り添いながら、日々熱心に指導にあたっている姿が随所に見られ、高く評価できる。また、保護者や地域との連携を大切にしながら、学校全体で子どもたちの成長を支えようとする姿勢も強く感じられた。

取組の中には、健全育成事業（フェスタ塚）など、生徒の新たな一面や生き生きとした姿が見られる機会もあり、日頃の積み重ねが確かな成果として表れていると感じる。こうした地道な取組が、生徒の成長につながっていることは大変意義深く感じる。。

一方で、学習面や生活面における課題も依然として見られるが、学校として着実に改善に向けた取組が進められており、全体として良い方向に向かっていると評価できる。特に、ICT機器の活用については、小学校での取組も踏まえ、中学校においてもさらなる活用の充実が望まれる。

今後も、より良い学校づくりに向けて、地域としても積極的に協力していきたいと考えている。引き続き地域や保護者と連携を深めながら、必要に応じて支援を求めていきたい。